

(29) 「寛文戊□

(154)×19×9 019 ャ 837

(30) 寛文九年」(縦刻)

(115)×15×7 061 タケ 887

(31) □[宝]11年 池田屋

(101)×(24)×5 081 ハノキ 296

(27)は巡礼札、(28)は捺札である。(29)は曲物蓋、(30)は箱、(31)は板に墨書、(30)は茶杓の柄に線刻したもので、このほか年紀を記したもののが幾つかある。また、三~四方の厚めの材に人足名を記した人足札、糸巻に所有を示す人名を記したもの、曲物側板に「上候 ト地 とりめ 二貫文の 代拾匁」と墨書のあるもの、木製容器の蓋に「はま なつとう れん□」と記したもの等があり、当時の雇用労働・経済活動を知る資料として興味深い。

(梅川光隆)

木簡研究 第11号

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——
一九八〇年出土の木簡

大庭 倩

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 碑田遺跡—下ッ道— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (3)

平城宮跡(第二二次・第二三次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

庸米付札について

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

草戸千軒町遺跡出土の木簡—形態を中心に—

原秀三郎
志田原重人

彙報

価格 三五〇〇円 二四〇〇円